

区分・種別	国宝(工芸品)		
名 称	こんいとおどしよろい かぶと おおそでつき 紺絲威鎧 1領 兜、大袖付		
所 在 地	今治市大三島町宮浦		
所 有 者	大山祇神社	管 理 団 体	
指定年月日	明治34年3月27日 国 昭和27年3月29日 国宝		
解 説	鎧総高（胸板から草摺裾まで）76cm、兜鉢高さ12.5cm、大袖高さ41cmで、源平合戦ころの武将が着用した甲冑である。鎧は、黒漆塗りの鉄と革の平札を1枚まぜに、幅広で厚手の紺麻糸をもって威し、啄木打ちの組糸で耳を取り、紅猿轡で畦目と菱縫を施してある。 花襷入り獅子円文の染革、鍍金の覆輪を施した金具回りの形、文金物の手法等は、古雅な趣のうちに豪壮な調子があり、保元・平治物語などという「大荒目」の鎧の名に負うものである。 兜は、鉄錆地で、いかめしい空星を11行に打ってあり、天辺孔の大きい急勾配の円鉢である。 平安時代末期12世紀の甲冑の顕著な特色をうかがうことができる逸品で、社伝によれば、伊予の豪族河野通信が壇の浦合戦での戦勝のお礼に奉納したものといわれる。		

